



私のカミさん の実家は、福島 県の川内村とい う阿武隈山地の 山々に囲まれた 山里です。とて も自然豊かなと ころで、道路か

5山に入るとす

ぐに、タラの芽、コシアブラ、様々な種類のキノコ、 なんとマツタケも採れたし、小川ではイワナも釣れま した。それが原発事故ですべてがダメにされてしまい ました。あれから5年をむかえますが、避難解除され た現在も老齢の義父母は、郡山市の仮設住宅で避難生

郡山市 橋本光一さん (JR郡山総合車両センター勤務

国鉄福島動力車労働組合委員長)

活を送っています。一方、職場に目を向ければ、昨年 8月から始まった除染でフレコンバッグの山が今でも ドンドン積まれていっています。

2013年には事故直後から原発20km圏内に放 置されていた車両の整備、点検をする仕事がありまし た。会社は「国が安全と言っているから安全」と言う だけで、放射線防護策を一切とりません。そこで、会 社に防護服と青年労働者をその危険な作業から外すこ とを要求して闘いました。結果、青年を作業から外さ せました。職場には家族で仙台に避難し、新幹線通勤 を続けている青年たちもいます。

失ったものを取り戻すことは大変困難ですが、自分 の足元から声を上げ、全原発廃止実現に向け、行動し ていきたいと思います。

つながる思い 🗙

昨年8月の富士山ふもとでの保養2日目。子どもvs 大人のドッジボールは見事子どもチームの勝利!運動 不足の体をひきずり宿舎に帰り、夜はカタカナのフク シマ、放射能をめぐってみんなで話し合った。子ども たちが近づけてくれた心の距離は、さらにグッと近く なり、「保養にあぶれて、どこかないかな。東京でも いいの」という話に。帰りのバスでは「あの人の家の 部屋借りれないか」など考えながら、メラメラと燃え る「東京保養」構想。

9月の連休、東京で再びあの子どもたちと会えるこ とに。米はお米やさんから、野菜は成田空港の立ち退 きに抗する農民から。お金は安保法制で盛り上がる国 会前で。たくさんの人が福島を思っている。バーベキュー、

福島とともに生きる東京保養

nazen東京 おだ

サッカー、動物園、トルコ料理。手作りのパラシュー トや飛行機。大人ではかなわない体力。キラキラと学 び成長する力。仲間になる力。学ばされることばかり

子どもたちとの(親もですよ!)別れは「また早く 会いたいな」と寂しい。一緒にこの子たちを守り育て、 生きていかなくちゃ。いつでも泊まりにこれる家族を 東京につくるような保養。東京を起点に福島の人たち の怒りと行動が広がる保養。東京の仲間も結束できる。 この力で、問題の原

因たる原発・核をな くすため東京こそ立 ち上がります。



編集後記

昨年、当院の悪宣 伝をした地元紙が、 現在「(放射能被害

を強調して)福島をおとしめるな」というキャ ンペーン記事を連載している。戦争と原発再 稼働にまっしぐらの安倍政権が、オリンピッ クにあわせて無理やりすすめる帰還政策との みごとな連係だ。3・11からまもなく5年、 行政や学者のウソを見抜き、被ばくによる健 康被害に怒り立ち上がる福島の人々をおとし めているのは彼らの方だ。(え)

変える力はここにある!

私たちが歴史を動かす!

3.11反原発福島行動'16

と き: 3月11日(金) 12時~ ところ: 郡山市 開成山・野外音楽堂

集会後、郡山駅までデモ行進

私も呼びかけています。

http://fukushimaaction.blog.fc2.com/



発行:2016年2月10日

ふくしま共同診療所 News letter

第12号 季刊-冬・春号

診療時間:9:30-12:30/14:30-18:00 土 日 月 火 水 木 金 午前 ● I ● I ● I ● I 午後 ● | ● | - | ● |

診療科目: 內科/放射線科/循環器科/リウマチ科 **〒**960-8068

福島市太田町20-7 佐周ビル1階 TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

12月13日、ふくしま共同診療所報告会を郡山市ビッグア イで開催しました。琉球大学名誉教授の矢ケ崎克馬さんの 講演と布施院長が報告を行い、100名を超える参加者で 会場が満員になりました。※矢ケ崎教授の講演は2ページに掲載

〈報告〉ふくしま共同診療所 布施院長

「甲状腺がんの多発と健康被害に向きあう診療を」

当診療所は、福島第一原発事故による健康被害を心 配する全国の方からの募金によって設立、運営してい ます。チェルノブイリでは、移住の権利が認められた 年間 1 ミリシーベルト以上で生活している福島の住民 の健康を守るため、「避難・保養・医療」を原則に掲 げ、診療活動を行っています。 開院して3年、主に子 どもたちの甲状腺エコー検査を中心に通常診療を行っ ています。原発労働者や除染労働者も来ます。また仮 設住宅で暮らす人たちへの健康相談会、県内での報告 会や全国各地からの依頼による講演活動も行っていま す。原発事故が収束していないため、安定ヨウ素剤の 配布も行います。昨年度は、受診者数が2千人を超え、 その中で842人の甲状腺エコー検査をやりました。

現在、福島県内の小児甲状腺がんおよび疑いと診断 された子どもは153人で、116人が手術を終えま した。県内分布をみると中通りが非常に多い。また、 2巡目の本格検査で見つかった39人のうち、一巡目 の先行検査では異常がないとされる(A判定)37人が 新たにがんと診断されました。2、3年でがんが発生 するなら、20歳以降の5年間隔の検査では大変なこ とになります。県民健康調査検討委員会は、「原発事 故による被ばくの影響は考えにくい」としています。 放射能の影響かどうかの結論を出すのは検査をなんど か続けた10年以上先になりそうです。

県医師会は、昨年から県の委託により、開業医対象 に「放射能の心配はない」と患者を説得するための研 修会を実施しています。私が出席した時は「福島の放 出放射能はチェルノブイリに比べて6分の1とか10 分の1だ。100ミリシーベルト以下の被ばくの影響 は極めて軽微である。甲状腺がんは、高性能エコーに より全世界で増えている。福島だけではない。」とわ たり病院の斎藤紀医師が講演しました。



青森県は、2000年から行った18歳前の子ども 2 1万5600人を対象にした小児がん登録調査15 年間の結果を今年3月に公表しました。結果は小児が ん454件発生した中で、甲状腺がんはゼロ件です。 原発事故が起きた福島県は、この4年間で、115人 が小児甲状腺がんと確定されています。統計が違うの で単純には比較できませんが、余りにも違いすぎます。

甲状腺評価部会の中間とりまとめでは、「被ばくに よる過剰発生か、過剰診断のいずれかが考えられる」 としています。県立医大の鈴木眞一教授は、「手術は 当然必要な人を手術した、過剰診療ではない」と言っ ています。それなら原因は放射能しか残りません。 「この手術の話は誰にも言うな。就職や結婚ができな いぞしと県立医大の医師が言っているとも聞きました。 そんな中で、誰にも相談できずに決断をして手術をう けています。

今後、さらに被ばくによる健康被害は増加すると考 えています。みなさんには信頼できる医療を受ける権 利、そして健康に生きる権利があります。国や県は、 健康被害を認め、早急に被ばく回避の対策を講じる義 務があります。被ばくを強制する帰還政策、棄民政策 はもってのほかです。 みなさん、子どもだけでなく大 人も甲状腺エコー検査、血液検査などを定期的に受け ましょう。なにか不安なことがあったら、当院にご相 談ください。

甲状腺・乳腺エコー検査を受けましょう

検査日	土		月	木	金
午前 9:30-12:30	0	0	0	0	0
午後 2:30-6:00	0	0	_	_	0

○→甲状腺エコー ● →乳腺エコー ※土曜日の乳腺エコーは女性技師が担当します